繪本清水の池

上

M21
新
15

特別
A4
8200
1

^4
8200
1

最明寺殿教訓百首

清水乃池序

樵歌牧笛ハ野鄙ゆあれど万葉乃
俚謡も必ずしまでまて勧
善懲悪の柯を伐る真則みる已ゆ
あり茲生ゲ絵畫を牧童の笑州
乃稚を千歳ゆのちゆ蒔ちる寄
なれハ豈菊樵れ言を準縄の

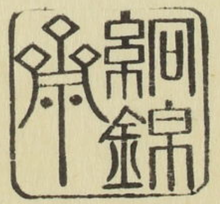
條あんや此百首の歌教訓乃
星霜久し歌書と人多最明寺
殿の自詠といひ伝へ実歌の幹も
かざるなく正直ていあい多
兒女の躾化ると卑賤の教戒ゆ
も往詞とくるうべ雑れ西川氏
ちんし商流乃絃枡を裁して

あり。亦清水の池と題す。俗語のひろく知れる。集も絵の情
に帰服ば、濁泥を決流し、多
清あれ池に月を宿す。その情誠
や杉ゝ。ろさ畫解といべ。我な
れん書林も教訓をいと善念
をおこして男女の石投戯み彩多

孝弟の道に益あらんとて漫滅の
字に紙點検し霧ひるふし
書を誣法に善をいで古き
名ゝ紙と春秋の寝覚にも
栄爽ゝし。今新に屋漏
にもたづぬなれ事多しば
人い神仏もいく鄙俗と潮き

不倦い此教示成者して享保
十六年辛亥乃冬はるゝ筆
拙立うきき事

中村三近子誌



いつの人の神ぐ
ゝろ
ゝかく
ゝれ
ゝ
ゝ
ゝ

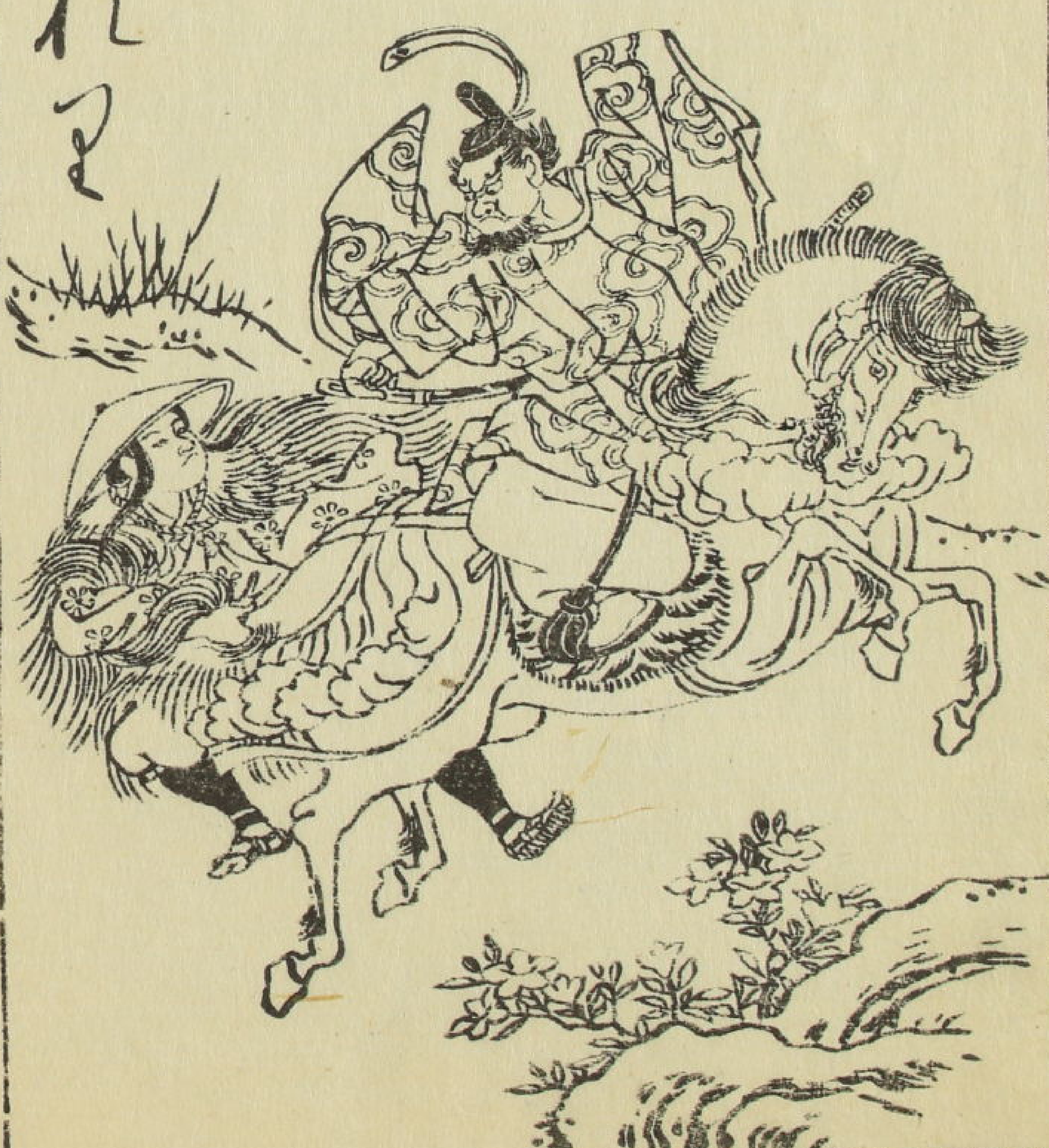
國しる
かみをしらん
人こそ
民を
あはれむ
心なりけり

國郡を知行する人ハ民の父母なれバ慈悲憐愍をもつて庶生を撫育して仁愛を施すべしおごりて民をしへたげ栄花をきはむる人ハ亡さるゝいなり其身に亡びざるも其子孫にいたりてハ絶滅をまねくぞおそれざらんやそれ民ハ郡の本也国さかゆるハ郡豊なるが故天の視るハ民の目よりし天の聴も民の耳よりきくとも云り民を苦め我を傲る人ハ先人命に背くハ天命に背けバ天罰にまかせ終に滅亡をまねくべし

佛とも
神とも
人を
なりぬるものを
などか心は
おもはざるらん

仏といふも神といふも果報ある人を崇めて仏とも神ともいふ是心の仏の浄土にして弥陀といふ則心則仏と云又ハ神明の内陣と云神明の御舎ともいへり迷ふ時ハ衆生悟る時ハ神仏なり仏の教ハ仏の示す慈悲の心ハ則仏也清浄正直の心ハ則神也神ハ慈悲仏ハ正直かくなれバ神まぎらハしく仏の心とかはらず迷へバ凡夫悟れバ仏と云ハ口惜き事也

慈悲もなく慳貪にてしかも不道なる人のかね物をとりしは



それ人は慈悲の心を本として上をうやまひ下をあはれみ義を守り恥をしり欲すくなくあるべきを
慳貪邪欲にして主親をあなどりかろしめ人民をなやましむるものは畜生にもおとるべし
おそるべし大かたの人は道をしらずしてよからぬ事をなしてもわるきとはおもはず
欲を恣にして盗賊悪党をなせども是を恥しとは思はぬなり
義をまもり不道をせぬやうにつゝしみて人のものはいさゝかもとらぬやうにこゝろざすべし

悪しくそゝのかす けしからぬ悪をすゝむ 己が身をそく 玉のうそ紙

そもそも人の家には生れぬさきよりそれぞれの家業あり主君の御代官役人
の司ある者は役儀をつとめ百姓は田を作り商人は売買をし職人は細工をなし
各其家業を第一にしてつとむべき事なるにあそびたはぶれ博奕をこのみ
悪しき友にまじはり酒色におぼれ家業をおこたるものは身をほろぼし家をうしなふ
一日も人の身をたもつは家業のおかげなればつねにおこたらずつとむべし
よくよくつゝしみてわざをまもるべし

身の神を

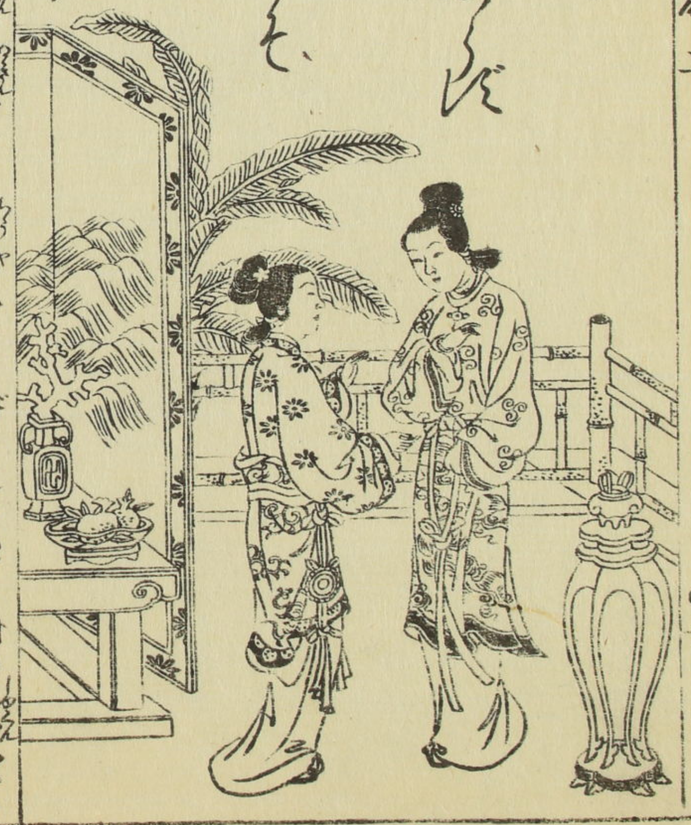
みしらぬ親を

親を

そそ[illegible]人こそ

あるれ

なり[illegible]



閑なる者は陽明の地に安く太勢を抽でんと欲すれども母はうるさく思ひ人貧なれば[illegible]ことを思ひ[illegible]ふつふつと[illegible]を[illegible]ことはつてきき者の[illegible]きこゆる君のおそれ[illegible]あり只[illegible]我方に[illegible]人を恨むべし[illegible]人いとやむと[illegible]

親のこゝろ

不孝は

身

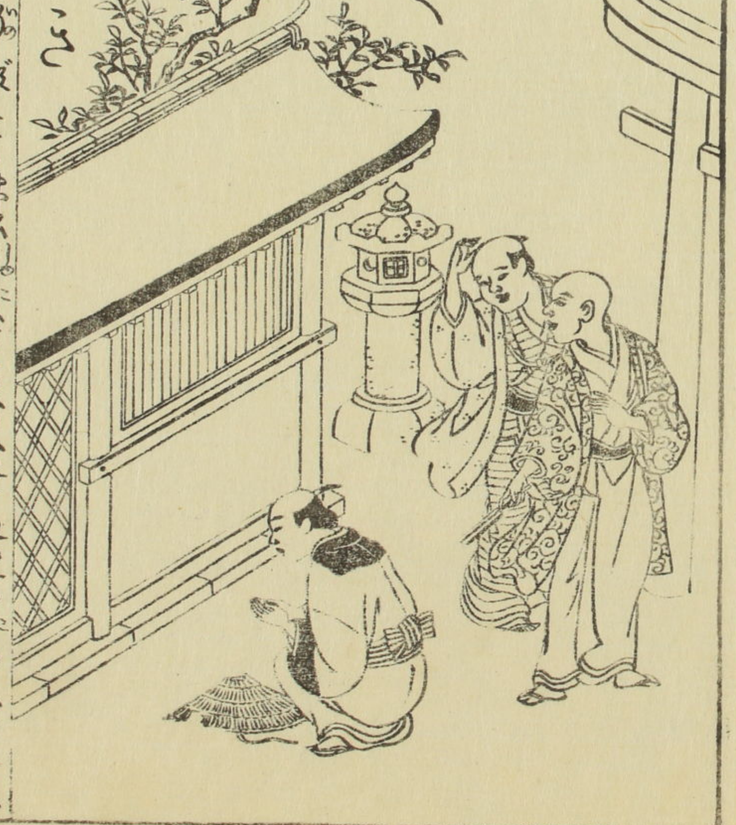
神なりけ

そすきを

見人と

いとで

なること



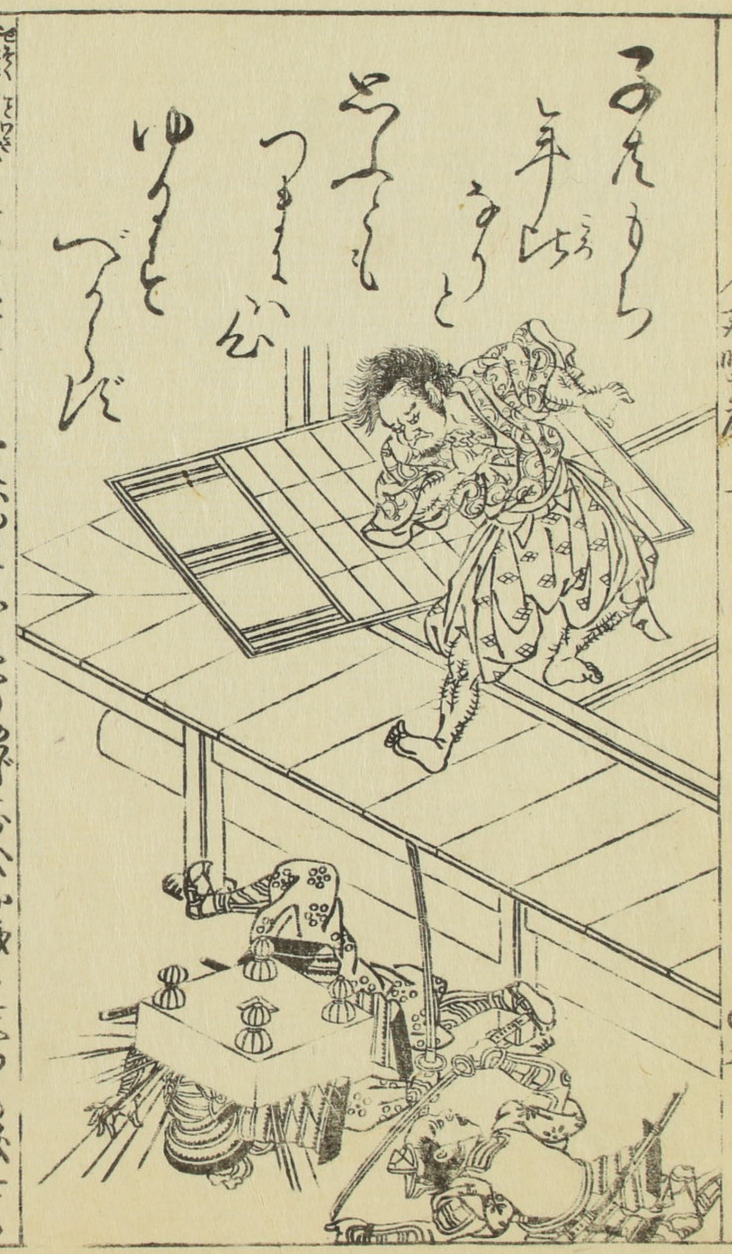
親ふよく孝行とはくをものい祈ばとて神仏も護とこゝろかけ也それ親いきの天乃地又神仏なり天乃神仏い居まれ[illegible]毎天乃神仏に一神の乃和ちりぬる子毎に不孝なるハ神仏の[illegible]毎に孝行なるい神仏の[illegible]毎に[illegible]財宝とあげるとこゝ毎をこゝろ[illegible]神ハ[illegible]

今日のこれを
みすいて
新しき
ほうきを
明日
そのこれを
宮めかしに世
しる

我も人も新しい孝行をしきものとおもふてゐるうちに
八四郎日とはなのことをすまして
やんとおくすると
病気新宮の方へ
つとる自わるい
ばそこ
ばかりもあるもの
ばかり
甲斐あるまで
今日
ばかり
考へる日
紙
とも
仕り

世をおろそく
物を
祝ふ
女をば
うゑく
いつまでも
おとべき
なり

女房のおろそかなるこゝろをつくるもの也
つぐらひの基也
離別
おろそかなるこゝろ
仲尼



世間の俗ふるとかなすもあれば公ゆるすのと
うのくるしいなかるもあり古今のかなもそれ
方ちまとはてつまれつくりあいなれ始いんぐ
といへどもくるしくあるべきわれいと紙ゆはしを
まづくるれかなはとあつて孫さつ人うごくあれ
ばこそ

あつて女は貝紙閑門の内にくらし髪も長くおそ
ばそ者ふりでさして用もなくなるとこれをこと
るとは結をとりの也或いはそれをかとうの結
をうきたぶくふかなくもまくかかり制しーとぐ
ぶさ事かり

利口して身をうせしれ

女房い

[illegible]まの

あさうがあとなし

[illegible]で人い[illegible]すく[illegible]見と取下して自慢の[illegible]がなく[illegible]と[illegible]ハ[illegible]ておもぐと[illegible]ひ[illegible]ハ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ

ワのハ
濁る
うつる
よ
なくば
さらそハ
うげれ
ふ
ふく
うぶ
ゑ

人家ゑひ詩ハ笑のうち也ぬるうなりうろてあきと沒めぬとかいのこちるそれハ濁ふ
うもとぐさかう臣敬よ我ちをあきをもとびろそ濁ようろ拍ないさこそそこうけじ
きくまこうく我なぐ〜有ろ〜ひんさわ〜ひすやうふわくろろやどさぐさるのそや

脇を立
ゆうう火の
もえあく
まれと
ワゴ月
を
ふぐ
こそ
ふ秋

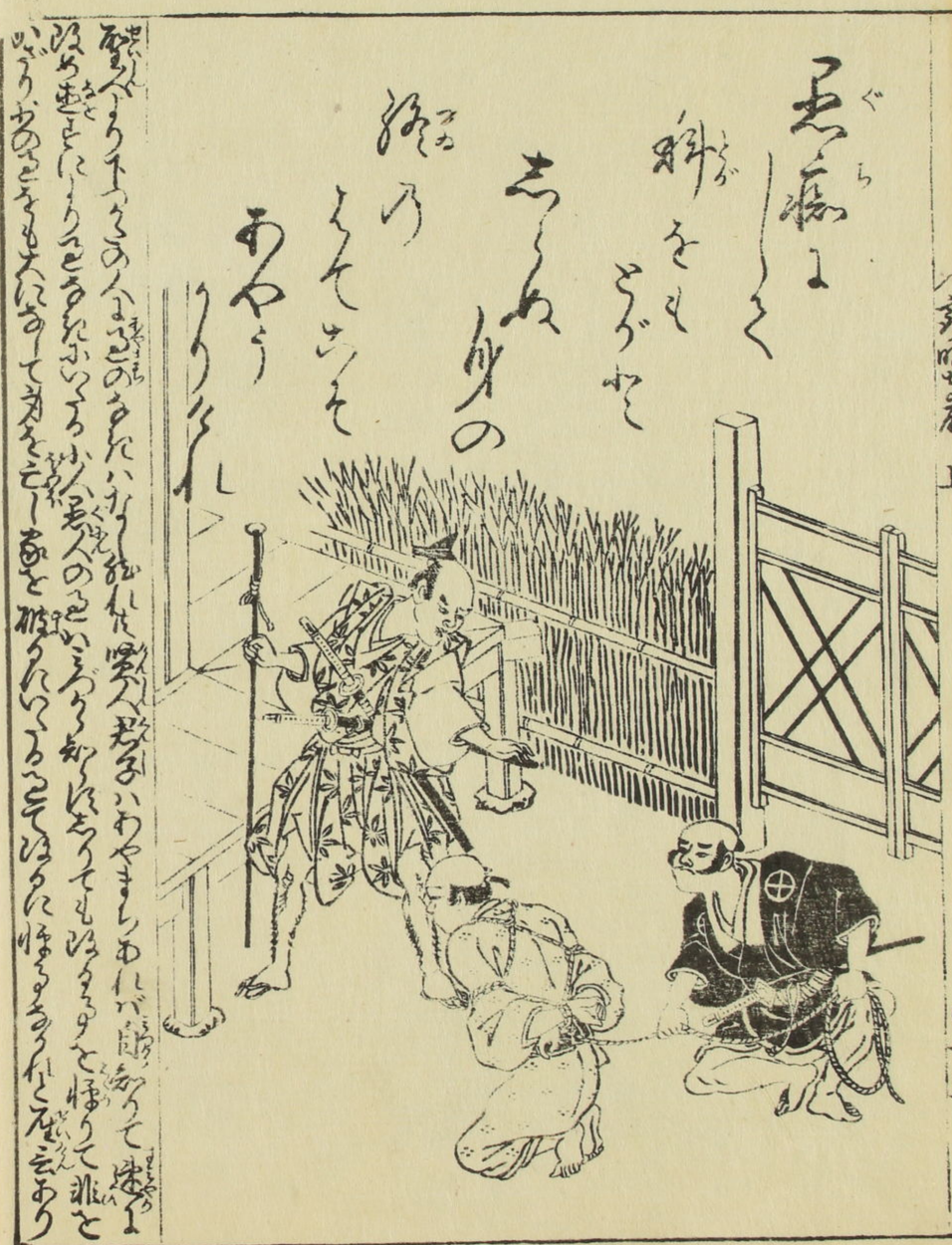
脇ハ肝とゆうて医書ふてくろ人脇の内をいろ人肝と腐といろ長さ脇ハ肝火
さうんふてもてこ脇とこじそこうふ
へいへ人ふくとつくそ我を拔を我〜ワゴ
を拔よわくずや一朝のいろけこ勇を三れしそ
を親に及とい迷ろと編発ふてくろ脇の立
ろ生者へいへを拔い我とそこうゆ笑脇のわんろとやいておさくぐゆべ〜くぐ

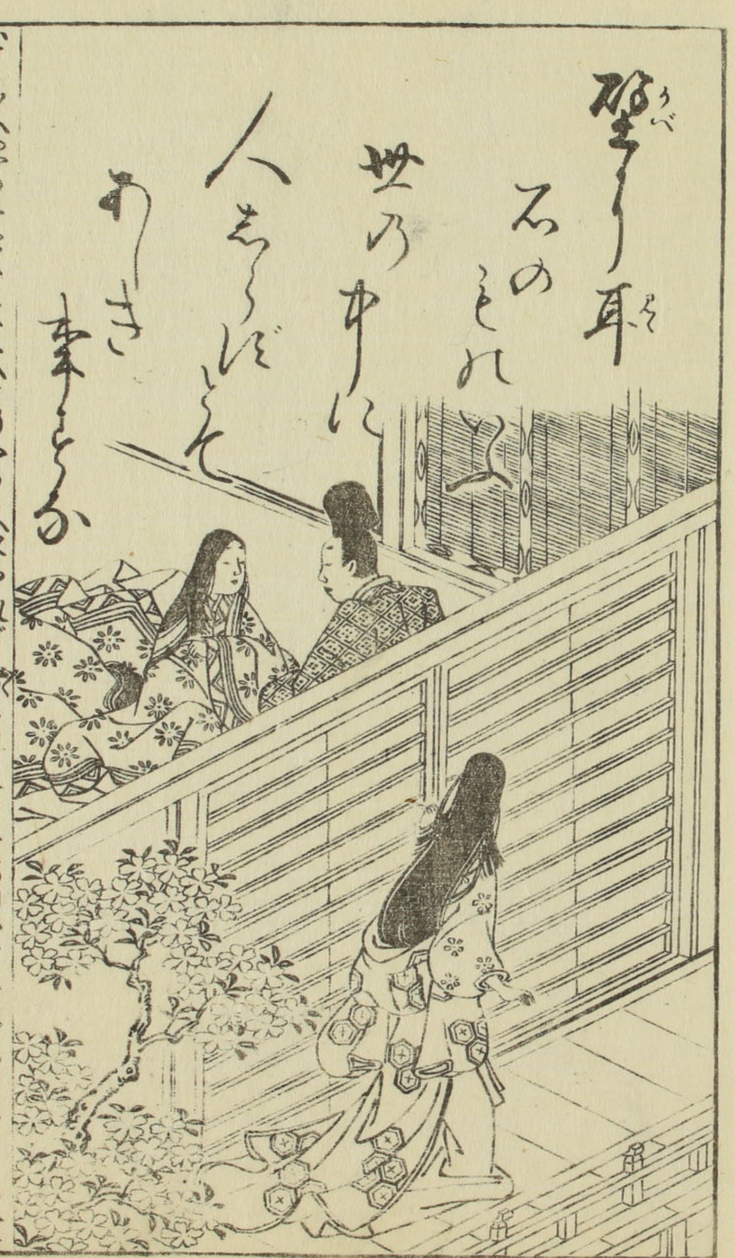
人をまねくと
ふいごれ
我身をおふい
ようもなしこん

人の悪をまねくとかうざるいひごとをいふ人のまねをしてこれ
あまれかしまし世の我つと者どこそいろ世をいふ孟子の行おもハを
仁義をまねて善ずんがを弱こうれ行てゐるてくわ用ハ皆ようつて己れ
ハ未己平て天下ゆを

人のふ
ふうり
秋の
おこるぞ
ぞかを
しるか
ふく
ほし先

四月猶乃門部いはざらいの概しいそうの孟軻のふ弟にも人の不善をつ
ゆのはざらいこいえうやんこんれ上をつふはは都て己をゆこあるづれうう悪ど
て人の悪ばおぐれいたの道をわびれ屋れうれいまう先なり





正直の
つ長人乃
ちからバ
神や
なくなれ
めぐみ
あるべし

神に正直のかぐらまぢり仏に妄想のいまゝあり
神ぐらまぢりにくるに正直乃仏神四仏陀の冥慮ようるまくるくるしあるべし

物まり
ちれ
ん
まぢり
なバ
利生
なくて
罰や
あるべし

もしいたの所に裏ようる正直なれば神の利生とくふるなれども正直なくして仏曲邪なら
ば世間の人もまくるまくるいかゝ世の人もまくるまくるいかゝ義理礼拝なくして利生と
ふるのくるまり物こゝろ物まる也世俗ふを付神のぐらあるべし神に非礼と文語いざ

みぐ有の
人を
見て
こそ
仏なを
ゝがけ
おい
んで有れ人

墨染
ゝ
ゝのゝ
ハ
ゝめば
して
世をゝう衣
きるを
をるき

人をゞふ
おゝゆべさ
身の
おこるる
えを
ゝをゝ
しる
かいや
なゝゝ

物ゝ
ゝ

何事も
こらゑる
うちの
人こそ
はらふくげなし
見ゆれひとぞ
なれ

世俗のことわざにも心ある鷹は爪をかくすといへりたとへよくこらゆる事ありともしらぬふりにてよそにけいはくするはよき事ぞ志らぬ事をも志りたるふりしてたまはんと思ふ事はよき事なり
むかしやそれはふくまげなるも向ひなりとしいひける也

ふく事なく
人の向ふん
時いそぐ
何ぞなれ
すまぬを
せよ

あくびはいふにおよばずきゝたくもなき事もよくきゝていふ事もなし
うたがはしき事をたゞしとくはなしにいたるまでいふべし
けんくわ口論をせぬ事くれぐれも常に心がけ申すべし
孝をまもりてはほとけの道にかなひ百戦百勝一忍にしかずといふ古語あり

我れよ
人のまきが人
わるば
いるの
まるたい
我ひるさなり

凡人おのれがちからをいたしたる人のまわさてもいるおろかなれどもまきも落おのれもちからを爾よりもまるものいるなれども人を礼してたとへんで具教よりこれ初めてねざることわるこれいたるうらておのれを求むとまきこ者をいるいれがごとくこ教しとあるこれはうたくおのれをもむとス者をいおのまを
せわか人いとはもしもこれ偏孟乃書よりこれ